

挑戦と感謝

4月、東京での単身赴任生活が始まった。慣れない環境、初めての一人暮らし。戸惑いながらも、新天地での挑戦に胸を躍らせ、新しい仕事を覚えながら、日々の業務に邁進してきた。学校現場とは全く違う業務。机に向かうことも多いが、チームで進めるプロジェクトや学びの多い環境に日々燃えていた。

ただ、業務に完全燃焼していた分、帰りの駅から15分ほどの徒歩の道のり。少しずつ寂しさも積もっていったのも事実。でも寂しさに負けていけない。単身赴任の間、妻は一人で子育てを頑張ってくれているのだ。長男は大学受験を控え、2人の弟たちも学校に部活や習い事。忙しくないわけがない。そんな中でも、夫婦の電話では、いつも明るい声で対応してくれた。

そんな怒涛の4ヶ月が過ぎ、8月に帰省する機会を得た。家に戻ると「おかえり」という家族からの言葉。出てくる食事。改めて家族のありがたみを実感した。東京では電車移動だけだったので、久しぶりの愛車の運転は幸せな時間だった。桜島を眺めながら海岸線を移動する。見慣れた景色、変わらない故郷の風景。その瞬間、込み上げてくるものがあった。

帰省中、長男のおかげで福岡での全国大会へ応援に行くことができた。3年間マネージャーとしてチームを支え続けた。全国の舞台でも、ベンチで試合前の準備や試合中の監督との戦術的なやり取り、コートサイドから仲間へ声をかける姿に成長を感じた。さらに最後の試合後、長男が自分たち夫婦のもとに駆け寄り、ここまで来れたことへの感謝の言葉をもらった。目頭が熱くなった。こちらこそ、ありがとう。

家族の支えがあったからこそ、私は今、東京で新たな挑戦を続けることができている。この感謝の気持ちを胸に、これからもコツコツと努力を重ねていきたい。

東京での生活は、刺激に満ちている。仕事では、多様なバックグラウンドを持つ人たちと出会い、新たな視点を得ることができている。プライベートでも、趣味のバスケットボールの審判活動を通して、様々な人と交流を深めている。

一方で、家族と離れて暮らす寂しさを感じることもある。そんな時は、家族とのビデオ通話や帰省した時に撮影した写真が心の支えになっている。

これからも、距離はあるけれど家族との絆を大切にしながら、東京での挑戦を楽しんでいきたい。秋の近づきを感じる空を見上げながら、改めて決意を新たに。「昨日の自分より何か更新できたか」そう問い続けて。これからも「自分史上最強を更新」を目標に日々精進していこう。

(H.M)